

ニッポン・ブランドの復権

社長として最初の施策は
社員に掃除をさせること

— 昭和19年設立の老舗メーカーの社長職を、先代の父親から受け継いだとき、中谷さんが最初に手をつけたことはなんですか。

3Sの奨励です。整理・整頓・清掃。恥ずかしながら、それまでは部材や仕掛品、書類などが乱雑に散らばり、作業服も着ずに仕事をしている者がいたくらい。

私が掲げた方針に対して、古参の社員のなかには「掃除で生産が上がるんだったら、ずっと掃除しとけばいい」などと、反発する者もいました。それでも口うるさくいつているうちに、若手をはじめ賛同者も出てきます。風向きが変わったのは、ISO9001の取



“罪庫”なんてとんでもない。
在庫は“財庫”なんです

長引くデフレが感覚をマヒさせてしまったのか、多くの経営者が仕入れにおいて品質よりも安さを優先するようになった。そのため、ねじをはじめ原材料の領域で、低価格を武器にするアジア勢が日本市場を侵食している。そんななか、設立73年のねじメーカー、東和工業が「ジャパン・ブランド復権に尽力している。品質でアジア勢に勝つ戦略を、同社代表の中谷氏に聞いた。

東和工業
代表取締役社長
中谷成智
なかにしげとも

1969年、大阪府生まれ。1994年に大阪市立大学工学部卒業後、東洋建設株式会社に入社。2000年に東和工業株式会社に入社。専務取締役などを歴任した後の2013年に、代表取締役社長に就任。3Sの奨励やISO取得の推進など、老舗企業に新風を吹き込み、社員の品質への意識を高める改革を陣頭指揮。低価格のアジア勢に立ち向かっている。

得に踏み切ったことです。外部の認証機関に「見られる」というプレッシャーから、みんなが清掃に取り組みようになったのです。

— 3Sを促進する施策はなにか
講じましたか。

たとえばペーパーレス化のためのシステムとして、2010年から紙の書類をスキャンしてサーバーに保存できる「デジタルドルフィンズ」を導入しています。書類はもちろん、図面、名刺、商品案内、品

質証明書から財務上の機密書類にいたるまで、かたっぱしから登録しています。

職場の整理・整頓に大きく寄与しましたし、過去の記録を探すのに、あちこち引き出しや戸棚をかき回したりせずにすみ、業務効率もアップ。とても重宝しています。

— 反発されながら「まず掃除」との信念を貫いたのはなぜですか。

輸入品との競争に勝つためです。いま、国内のねじ市場の6割は

アジア勢におさえられています。圧倒的に低価格だからです。

私たちは品質面で勝たなければいけない。それなのに職場が散らかっているのは、「ウチのねじは高精度です」といっても説得力がないです。実際、3Sを徹底したこと、不良品の発生率は目に見えて低下したんです。

地の利を活かして
スピード納品で勝つ

— 高品質を維持するほかに、輸入品に対して優位に立つための戦略を教えてください。

スピード対応です。アジア勢は海外から船で製品を運んでくる。私たちは地の利を活かして、顧客が望む製品を短期間に納品することで勝機を見いだせます。当社では、あらかじめ多くの種類のねじを製造し、顧客の注文があれば即納められる体制をつくっています。

— 在庫を多くもつのは経営リスクになるのではありませんか。

いいえ。在庫は「財庫」です。多くの種類の在庫があれば、どれかは必ず売れていく。リスクよりも、顧客ニーズに即応できるメリットのほうが大きいのです。「限られた種類の商品を見込みで大量につくり、「罪庫」になってしまった」。そんな事態になる可能性は、当社の場合低いんです。

— 地の利を活かし、顧客対応のスピードでアジア勢に勝つ具体的なケースを聞かせてください。

輸入のナット製品を「安いから」と買い、不具合が起きてから当社へ相談に来る顧客もいます。輸入品にはリスクがつきもの。というのも、クレームに対応できるヒトは日本にいないからです。こういう場合、当社はすぐに社員を派遣。顧客の状況を調べて、ただちにふさわしい製品を納めて、問題を解決しています。

コストだけではない価値を
世間に問うていきたい

— 顧客に親身に対応できる人材がそろっているわけですね。どうやって育成しているのですか。

私自身が全社員と面談する機会を定期的にもうけています。面接の場で、「製造現場での仕事は自分に向かない、辞めたい」と不満をいつていた20代の社員を管理部門に異動させたところ、イキイキと働くようになった例もあります。

— 今後のビジョンを聞かせてください。

コストだけではない価値を生み出し、世間に浸透させていきたい。「東和工業のねじなら安心だ」という評価を得て、ひいては「メイド・イン・ジャパン」の復権につなげたいですね。

東和工業の歩み

- 昭和19年 10月 戦時下における経済統制の強化の流れのなかで、当時の商工省のはたらきかけにより、小規模な事業者7社が合併して設立
- 昭和20年 1月 社名を東和工業株式会社へ変更
- 昭和53年 1月 大阪府堺市の埋立地に移転
- 平成16年 7月 ロイドレジスター クオリティ アシユアランス リミテッド(LRQA)により、ISO9001の認証を取得
- 平成28年 4月 堺商工会議所より「堺技衆」の認証を受ける
- 平成29年 2月 大阪府より「大阪ものづくり優良企業賞2016」として表彰される

材料の鉄線材の加工から自社で手がけ、1日約100万個の製造能力をもつ

